

平成20年度 屋外プールの水質実態調査

横浜市18区内の屋外プールにおける衛生管理状況の把握を目的として、屋外プールの水質実態調査を行いました。

1 対象施設及び試料

(1) 対象施設: 屋外プール42施設

(2) 採水日: 平成20年7月14日から8月6日

(3) 試料: 大プール44面^{*1}、小プール36面^{*2}、その他のプール(スライダープール、流水プール)8面^{*3}の計88面

*1 理化学検査は1面1試料、細菌検査は1面の中央及び対角線両端の3試料を(一部中央のみ)採水

*2 理化学検査は1面1試料、細菌検査は1面1試料を採水

*3 規模に応じて採水



2 検査項目

(1) 福祉保健センター現場検査項目: 遊離残留塩素濃度(以下残留塩素)、pH、水温^{*4}

(2) 衛生研究所検査項目: 過マンガン酸カリウム消費量、濁度、一般細菌、大腸菌群

*4 水質基準に該当しない参考項目

3 検査方法

厚生労働省通知「遊泳用プールの衛生基準について」に定める方法に準じました。

4 検査結果

検査結果を表に示しました。水質基準を超過した試料は計35面(大プール20面、小プール13面、その他のプール2面)でした。基準超過項目と延べ面数は、残留塩素が34面、一般細菌が大プール2面でした。大腸菌群、濁度、pH、過マンガン酸カリウム消費量については基準に適合していました。遊離残留塩素濃度は0.4mg/L未満が計13面(大プール11面、小プール1面、その他のプール1面)の14.8%で、1.0mg/L以上が計21面(大プール8面、小プール12面、その他のプール1面)の23.9%で、望ましい範囲(0.4mg/L以上1.0mg/L未満)にあったのは計54面の61.4%でした。約40%のプールは残留塩素濃度の調節が適当ではないことが分かりました。一般細菌が基準超過した2面(220、210cfu/mL)は、同一施設の2面でいずれも地下水を原水としていました。この2面のうち、1面は残留塩素濃度が0.2mg/Lで基準に達していませんでした。残る1面は基準に達しており、残留塩素濃度が0.7mg/Lでした。この1面で検出された残留塩素については、遊離残留塩素か結合残留塩素かの精査が引き続き必要と考えられました。

表 屋外プール水質検査結果

検査項目	基準超過 (超過面数/検査面数)			水質基準
	大プール	小プール	その他	
遊離残留塩素	19/44	13/36	2/8	0.4mg/L以上 (1.0mg/L以下が望ましい)
一般細菌	2/44	0/36	0/8	200cfu/mL以下であること
大腸菌群	0/44	0/36	0/8	検出されないこと
pH	0/44	0/36	0/8	5.8以上8.6以下であること
過マンガン酸カリウム消費量	0/44	0/36	0/8	12mg/L以下であること
濁度	0/44	0/36	0/8	2度以下であること

【 水質担当 】